平成22年度事務事業評価表（平成21年度振り返り）

政策名	快適な都市環境が整ったまち

施策番号・名	22	公共下水道の整備

基本事業番号・名	22-02	雨水の適正処理

事務事業番号	所管課係名 事務事業名		事務事業の目的（事務事業の対象、手段、意図）	対象指標（対象の数値指標化） 指標	実績値（単位）	活動指標（手段の数値指標化） 指標	実績値（単位）	成果指標（意図したことの結果の数値指標化） 指標	実績値（単位）	事業費（実績額）①	人件費（理論値）②	トータルコスト ①+②	改革・改善の余地（目的妥当性・効率性・有効性・公平性から）	改革・改善の余地を踏まえた平成23年度以降に向けた事務事業の方向性（所管課長記入欄）
22-02-01	施設管理課 下水道計画係	対象	協議会構成市（小平市・東村山市・東久留米市）	参加団体数	平成21年度 3（団体）	勉強会・視察研修会参加人数及び要望書提出件数	平成21年度 3（人）	東久留米市の雨水整備率	平成21年度 12.6（%）	平成21年度 10	平成21年度 100	平成21年度 110	選択項目：22年度以降に向けた方向性　説明（選択理由）：現状維持 改善の余地：□ あり　■ なし 関連3市と東京都で運営しているため、現状では、改革・改善の余地はない。	選択項目：所管課長名：　説明（選択理由）：施設建設担当　小林尚生 23年度以降に向けた方向性：現状維持 関連3市と東京都で運営しているため、廃止、休止、縮小は難しい。
	黒目川流域公共下水道事業雨水整備促進協議会参画事業	手段	事業推進に関する要望書の送付や視察研修会の開催		平成20年度 3（団体）		平成20年度 3（人）		平成20年度 12.5（%）	平成20年度 10	平成20年度 98	平成20年度 108		
		意図	黒目川流域の雨水排除計画の策定及び同事業促進に関する連絡調整		平成19年度 3（団体）		平成19年度 3（人）		平成19年度 12.3（%）	平成19年度 10	平成19年度 98	平成19年度 108		
22-02-02	施設管理課 下水道計画係	対象	過去の都市型水害の発生箇所	整備区域面積	平成21年度 0.84（ha）	整備延長	平成21年度 382（m）	雨水下水道整備率	平成21年度 12.6（%）	平成21年度 180,062	平成21年度 25,966	平成21年度 206,028	選択項目：22年度以降に向けた方向性　説明（選択理由）：現状維持 改善の余地：□ あり　■ なし 場所や状況により、降雨を全量、雨水管で排水する方式では無く、浸透・貯留も含めた整備を行うとともに、区域を絞って整備することが必要である。	選択項目：所管課長名：　説明（選択理由）：施設建設担当　小林尚生 23年度以降に向けた方向性：現状維持 都市型水害による浸水対策として、浸透貯留も含めた地下還元による整備を行うとともに、冠水解消に向け区域を絞って計画的に整備を実施していく必要がある。
	下水道(雨水)整備事業	手段	雨水管渠整備		平成20年度 2.78（ha）		平成20年度 483（m）		平成20年度 12.5（%）	平成20年度 414,800	平成20年度 19,752	平成20年度 434,552		
		意図	水害による被害の軽減		平成19年度 2（ha）		平成19年度 295（m）		平成19年度 12.3（%）	平成19年度 175,900	平成19年度 19,752	平成19年度 195,652		
22-02-03	施設管理課 下水道施設係	対象	過去の都市型水害の発生箇所	雨水調整池	平成21年度 5（箇所）	雨水調整池の清掃回数及びポンプ施設の点検状況。	平成21年度 7（箇所）	雨水下水道施設の不具合発生率。	平成21年度 0（%）	平成21年度 2,053	平成21年度 328	平成21年度 2,381	選択項目：22年度以降に向けた方向性　説明（選択理由）：アウトソーシング 改善の余地：■ あり　□ なし 下水道施設維持管理の広域化・共同化の推進。	選択項目：所管課長名：　説明（選択理由）：施設建設担当　小林尚生 23年度以降に向けた方向性：アウトソーシング 下水道施設維持管理の広域化・共同化の推進を図っていく。
	下水道（雨水）施設維持管理事業	手段	市内に５箇所ある調整池の清掃及び調整池内に設置してある排水ポンプの点検業務。		平成20年度 5（箇所）		平成20年度 7（箇所）		平成20年度 0（%）	平成20年度 2,106	平成20年度 321	平成20年度 2,427		
		意図	雨水の貯留機能を常時適正に保つようにし、都市水害を防止する。		平成19年度 5（箇所）		平成19年度 7（箇所）		平成19年度 0（%）	平成19年度 2,012	平成19年度 320	平成19年度 2,332		
22-02-04	施設管理課 下水道施設係	対象	過去の都市型水害の発生箇所	流域下水道雨水幹線への接続マンホール箇所数	平成21年度 2（箇所）	流域下水道雨水幹線への接続マンホールの年間清掃回数。	平成21年度 2（箇所）	流域下水道雨水幹線への接続マンホールの年間清掃回数	平成21年度 0（%）	平成21年度 289	平成21年度 101	平成21年度 390	選択項目：22年度以降に向けた方向性　説明（選択理由）：アウトソーシング 改善の余地：■ あり　□ なし 下水道施設維持管理の広域化・共同化の推進。	選択項目：所管課長名：　説明（選択理由）：施設建設担当　小林尚生 23年度以降に向けた方向性：アウトソーシング 下水道施設維持管理の広域化・共同化の推進を図っていく。
	下水道（雨水）管渠維持管理事業	手段	流域下水道雨水幹線への接続マンホールの維持管理業務		平成20年度 2（箇所）		平成20年度 2（箇所）		平成20年度 0（%）	平成20年度 289	平成20年度 99	平成20年度 388		
		意図	常に雨水が速やかに流れるような状態にし、水害を少なくする。		平成19年度 2（箇所）		平成19年度 2（箇所）		平成19年度 0（%）	平成19年度 267	平成19年度 99	平成19年度 366		
22-02-05	施設管理課 下水道計画係	対象	流域下水道事業における雨水幹線	雨水幹線工事数	平成21年度 1（件）	雨水幹線建設負担金額	平成21年度 5,861（千円）	雨水幹線事業進捗率=執行済事業費／全体事業費	平成21年度 100（%）	平成21年度 5,861	平成21年度 90	平成21年度 5,951	選択項目：22年度以降に向けた方向性　説明（選択理由）：現状維持 改善の余地：□ あり　■ なし 雨水幹線工事は今年度で事業終了予定である。	選択項目：所管課長名：　説明（選択理由）：施設建設担当　小林尚生 23年度以降に向けた方向性：現状維持 雨水幹線工事はH22年度に事業終了予定であり、廃止、休止、縮小は難しい。
	荒川右岸東京流域下水道(雨水)建設参画事業	手段	雨水幹線工事に伴う建設負担		平成20年度 1（件）		平成20年度 78,237（千円）		平成20年度 98.07（%）	平成20年度 78,237	平成20年度 395	平成20年度 78,632		
		意図	流域下水道へ接続可能となる区域		平成19年度 2（件）		平成19年度 1,653（千円）		平成19年度 95.7（%）	平成19年度 1,653	平成19年度 395	平成19年度 2,048		

平成22年度事務事業評価表（平成21年度振り返り）

政策名	快適な都市環境が整ったまち

施策番号・名	22	公共下水道の整備

基本事業番号・名	22-02	雨水の適正処理

事務事業番号	所管課係名 事務事業名	事務事業の目的（事務事業の対象、手段、意図）		対象指標（対象の数値指標化） 指標	実績値（単位）	活動指標（手段の数値指標化） 指標	実績値（単位）	成果指標（意図したことの結果の数値指標化） 指標	実績値（単位）	事業費（実績額）①	人件費（理論値）②	トータルコスト ①+②	改革・改善の余地（目的妥当性・効率性・有効性・公平性から）	改革・改善の余地を踏まえた平成23年度以降に向けた事務事業の方向性（所管課長記入欄）
22-02-06	施設管理課 下水道計画係	対象	公共下水道（汚水・雨水）	下水道施設の中期の整備目標。	平成21年度 60 （ km ）	築30年以上の管渠健全度調査延長	平成21年度 0 （ km ）	管渠の調査延長/築30年以上の管渠延長	平成21年度 0 （ % ）	3,882	151	4,033	選択項目：22年度以降に向けた方向性 説明（選択理由）： 改善の余地：☐ あり ■ なし 平成21年度から委託を開始し、今年度で最終的なプラン作成を行う。具体的な内容は、施設の改築・更新事業が主たるものとなる。	選択項目：所管課長名：施設建設担当　小林尚生 説明（選択理由）： 23年度以降に向けた方向性：廃止（完了・統合含む） 下水道プランに基づき下水道施設の改築更新事業を行っていく。
	下水道プラン策定事業	手段	概ね10年程度の下水道政策の基本的方法と施策ごとの整備目標及び具体的施策の設定。		平成20年度 60 （ km ）		平成20年度 0 （ km ）		平成20年度 0 （ % ）	0	50	50		
		意図	現状の下水道が抱える課題の解消を図る。		平成19年度 60 （ km ）		平成19年度 0 （ km ）		平成19年度 0 （ % ）	0	30	30		
22-02-07	施設管理課 下水道計画係	対象	公共下水道（汚水）	既存の下水道施設	平成21年度 288.62 （ km ）	既存の下水道施設のデータ作成	平成21年度 0 （ km ）	既存の下水道施設のデータベース化	平成21年度 0 （ km ）	4,651	100	4,751	選択項目：22年度以降に向けた方向性 説明（選択理由）： 改善の余地：☐ あり ■ なし 平成21年度から委託を開始し、既存の下水道施設のデータ収集はほぼ終了した。今年度はこれらの施設のデータベース化作業を行う。翌年度以降は、新規データ入力と減価償却費を算定する。	選択項目：所管課長名：施設建設担当　小林尚生 説明（選択理由）： 23年度以降に向けた方向性：廃止（完了・統合含む） 下水道施設の固定資産等をデータベース化したことにより、今後の公会計（企業会計としての財務4表等）に移行できるよう準備していく。
	公共下水道施設資産評価事業	手段	下水道事業により産出された有形・無形の固定資産（既設の下水道施設）調査。		平成20年度 287.4 （ km ）		平成20年度 0 （ km ）		平成20年度 0 （ km ）	0	50	50		
		意図	賃借対照表、行政コスト計算書、資金収集収支計算書、純資産変動計算書の作成。		平成19年度 286.7 （ km ）		平成19年度 0 （ km ）		平成19年度 0 （ km ）	0	30	30		